

市議会だより おおまち

204号

令和8年11月1日発行

9月定例会号

特集 令和7年度決算審査報告	2～4ページ
一般質問	8ページ
議会モニターの声	15ページ



議会だよりライブラリーで
過去の議会だよりも
見ることができます



表紙写真 | 市立大町総合病院 病院祭

大町岳陽高校書道部がしたための「希望」の灯火。
「若者」とは「未来」の異名。 撮影者：太田昭司

表紙の写真を
募集します！

9月定例会は決算議会と言われ、決算審査特別委員会において前年度の事業を評価検証します。市民からのお金はどう使われたか、事業が効果的に実施されたかを検証し、成果や課題を洗い出すことが次年度予算への提言につながります。

委員会では、下記のような意見が出されました。意見が次年度へどう反映されるか、3月定例会の新年度予算審査にて検証します。

財政状況は？

◆経常収支比率は人件費や物件費等の増加により93.6%と昨年度から3.5ポイント上昇。70～80%程度が望ましいとされていることから、財政の硬直化が進展しているので留意が必要である。

項目	7年度	6年度	5年度
財政力指数 1に近いほど財政力が高い	0.44	0.44	0.44
経常収支比率 財政に占める人件費などの経常経費 高いほど財政の自由度が低い	93.6%	90.1%	89.8%
実質公債費比率 通常見込まれる収入に占める借金返済額の割合	8.0	8.3	8.3

防災・安全

近年の災害などに対応できるよう、自主防災会等啓発と連携を

サポートセンターを主とした自治会との連携事業

委員会審査

問 防災訓練等への参加自治体が少ない。サポートセンターや危機管理課と自治会の連携の強化を図られたい。

答 自助・共助・公助の有用性などを含め、自治会、自主防災会と行政の連携も必要である。

提案 近年災害が頻発している。各部署が連携し防災意識の向上に努められたい。

財源

引き続き収納率の維持・向上を

市税の収入状況

委員会審査

問 市税の収納率が県下トップを維持しているがその要因は。

答 県滞納整理機構でのノウハウを活かし、滞納が発生しないよう努めている。

提案 引続き業務に邁進されたい。

令和7年度決算を認定！

一般会計 歳入207億円余 歳出200億円余
特別会計・企業会計 歳入118億円余 歳出120億円余

まちづくり

道の駅としての
ぽかぽかランド美麻の
活性化策は

委員会審査

問 近隣の道の駅と競合する中で、ぽかぽかランド美麻の道の駅としての活性化策は。

答 観光施設として検討する必要がある。観光部局と連携の必要性を含め検討したい。

提案 ぽかぽかランド美麻を活性化するためにも、現状を的確に把握し検討・改善されたい。



マンネリ化した
ひとが輝くまちづくり
事業の改善を

伝統文化の継承やまちづくり事業等を行う団体への支援事業

委員会審査

問 次世代のための「子どもの部」の創設等も検討されたい。

答 総合計画の実施時期に合わせてリニューアル等を検討したい。

提案 若者の団体も見られた。今後のまちづくりなどを担う子どもたちや若者の募集について検討されたい。

特産品開発の強化と
創業支援への
連携に向けた取り組みを

大町市の特産品の開発・販路拡大事業

委員会審査

問 特産品の開発の強化を図り、創業支援へと繋げるための施策の取組状況は。

答 開発面での課題が多く、コストが過大であるため、支援策なども検討したい。

提案 創業支援へと繋がるような特産品の開発にも重きを置かれたい。

議員が質した9月定例会

こんなことが決まりました！

議案第50号

市有財産の取得について

■結果 全会一致で可決

災害用ポータブル蓄電池の取得

議案の概要……………

災害時の停電に対する初動対応を想定したポータブル蓄電池を76台購入する事業。蓄電池、LED投光器、ソーラーパネルが1セットとなる。

委員会審査

Q この蓄電池セットの管理方法は。

A 配備先である公民館等の施設管理者や集落の代表者に管理をお願いする。

Q 予定価格と落札額に大きな差額が出た理由は何か(落札率50%)。

A 予定価格は市場取引価格などにより適正に算定している。この市場は技術革新や量産化による価格の下落が激しく、落札額が低下したものと判断している。安全基準や性能は保障されている。

議案第52号

大町市手数料条例の一部を改正する条例について

■結果 全会一致で可決

住民票等の取得、より手軽に

議案の概要……………

市役所ロビーに多機能端末機を導入。マイナンバーカードを利用することで住民票等が300円から200円で取得可能に。

委員会審査

Q 市役所には対面窓口もある中で、多機能端末機の設置を進める目的は何か。

A 端末機への案内により、安価かつ手軽な利便性を実感してもらい、窓口DXを段階的に推進する。また、事務改善の一環として、全庁的な連携を図りながら受付体制の検討も進めていく。

議案第57号

令和8年度大町市一般会計補正予算(第3号)

■結果 全会一致で可決

おおまびょんブランドの強化

委員会審査

Q おおまびょんの人気をブランド化によって活用する方策はないか。

A 現在、駅前前の36(ごんろく)ラウンジに、おおまびょんのカプセルトイレを設置しているが、別の場所にもう1台設置し、駅前から本通りへの周遊に結び付けたい。また、11月に、おおまびょんの感謝祭を予定しており、それに向けて様々な対応を検討していきたい。



運動公園テニスコートを改修へ

議案の概要……………

老朽化が進む運動公園テニスコート2面について、良好な利用環境を提供するため人工芝の張り替えを行う。

委員会審査

Q 経年劣化による交換とのことだが、人工芝を張り替えることになった具体的な経緯は何か。市民や利用者の声を聞いた結果なのか。

A 本年4月に使用料の減免制度を見直した際、テニス協会等から利用環境が悪いといった意見をいただいた。これを受け、順次整備を行うこととし、今回の補正予算に計上したものである。

環境

太陽光発電事業者の設置管理は適切か

事業者が太陽光発電設備の設置・管理・撤去等を条例に従い適切に行うよう指導する

委員会審査

問 事業者の手続きの不備が散見されるとのことだが、どんなケースがあるか。

答 完成したものが設計と違う場合、変更届の提出が義務付けられているが、変更届を提出していないため、運転を開始できないケースもある。

提案

事業者には条例に従った太陽光設備の管理運営を行うことを求めたい。また、条例に従わない業者については担当課において厳しく対処されたい。

施設

利用率の低い体育施設はあるか

体育施設の利用・管理状況を踏まえ、長寿命化等を行い良好な利用環境を整備する

委員会審査

問 老朽化した体育施設が多いと聞いている。公共施設等総合管理計画に沿った体育施設の総量の見直しは進んでいるか。

答 今後5年間において利用率の低い施設は統廃合についても検討するなど総量の見直し行う。

提案

今後は市民に対し受益者負担を求めることとなる。施設を利用する地域の団体・市民とも話し合いを進め、施設総量の見直しを進められたい。

霊園の聖地の返還状況は

聖地を安定して確保・提供するとともに安心してお参りできる環境を整備する

委員会審査

問 令和7年度の聖地の申込み数は6件と聞いている。返還の届出は何件になるか。また聖地の空き状況はどのくらいあるか。

答 7年度の聖地の返還数は18件である。そのうち6件は合葬式墳墓を申込まれた。8月末時点の空き区画数は150区画である。

提案

空き区画が増加する中、公共施設等総合管理計画に沿って、今後のあり方についても検討されたい。

大町病院建替えの検討を

公共施設としての大町病院の修繕・建替えなど、今後のあり方の検討は重要課題の一つ

委員会審査

問 大町病院の老朽化が進んでいる。患者はもちろん、病院職員の環境改善のためにも修繕・建替えの検討をすべきでは。

答 病院施設の老朽化は重要課題と認識している。建替えも含め検討を進めているが、建築資材・輸送費等の高騰等、積算が難しい時期にある。現在、優先順位を決め修繕に取り組んでいる。

提案

日頃からの適切な修繕が病院施設の長寿命化につながる。職員が働く環境改善のためにも適切な修繕と今後の建替えの計画策定も進められたい。

9月定例会最終日の討論内容を要約してお伝えします

討論は議案等の採決の前に、なぜ反対なのかなぜ賛成なのか、議員個人の意見を表明し、意見の異なる議員に賛同を求めるために行われます。

討論
沸騰!!

令和8年9月定例会
提出案件の審議結果

議案・陳情の原案に対して「賛成は○」「反対は●」
議長は議事進行のため「賛成」「反対」の意思表示はしない

◇賛否が分かれた案件

議案番号	案 件	日本共産党		無所属クラブ		市民クラブ		政友クラブ				峻嶺会		公明	無	結 果		
		宮田 一男	栗林 陽一	大和 幸久	高橋 正	中牧 盛登	小澤 悟	山本みゆき	大竹真千子	中村 直人	西澤 和保	二條 孝夫	一本木秀章	降旗 達也	傳刀 健		太田 昭司	堀 堅一
議案第63号	令和7年度大町市一般会計歳入歳出決算の認定について	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○		議長	○	○	認定
議案第66号	令和7年度大町市水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	原案可決・認定
議案第69号	令和7年度大町市公共下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	原案可決・認定

◇全会一致で承認・可決・認定された案件

議案番号等	案件	結果
議案第50号	市有財産の取得について	原案可決
議案第51号	大町市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
議案第52号	大町市手数料条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
議案第53号	大町市福祉医療費特別給付金条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
議案第54号	大町市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
議案第55号	大町市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
議案第56号	大町市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について	原案可決
議案第57号	令和8年度大町市一般会計補正予算(第3号)	原案可決
議案第58号	令和8年度大町市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決
議案第59号	令和8年度大町市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第60号	令和8年度大町市公営簡易水道事業会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第61号	令和8年度大町市公共下水道事業会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第62号	令和8年度大町市病院事業会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第64号	令和7年度大町市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
議案第65号	令和7年度大町市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
議案第67号	令和7年度大町市公営簡易水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について	原案可決・認定
議案第68号	令和7年度大町市温泉引湯事業会計剰余金の処分及び決算の認定について	原案可決・認定
議案第70号	令和7年度大町市農業集落排水事業会計剰余金の処分及び決算の認定について	原案可決・認定
議案第71号	令和7年度大町市病院事業会計決算の認定について	認定
議案第72号	令和7年度高瀬広域水道企業団会計決算の認定について	認定
議案第73号	教育委員会委員の任命について	同意
議案第74号	令和8年度大町市一般会計補正予算(第4号)	原案可決
陳情第3号	「さらなる少人数学級推進と教職員定数改善のための教育予算確保」及び「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める意見書提出について	採択
議事第3号	「さらなる少人数学級推進と教職員定数改善のための教育予算確保」及び「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める意見書	原案可決

議案第63号

令和7年度大町市一般会計歳入歳出決算の認定について

原案に反対

職場環境の改善進まず不祥事再発

牛越市政の終盤に現れた不祥事は、市長が変わっても続いており、
鳥の遺産を転換することが急務。(宮田 一男)

芸術祭の財政負担を検証すべき

北アルプス国際芸術祭の効果や市民負担を検証し、今後の事業規模
や財政負担を見直すべき。(栗林 陽一)

松糸道路計画見直しを

市街地のほぼ真ん中を縦断するルートを、市民は先に取り除きの説
明ではなく、撤回を求めている。(大和 幸久)

原案に賛成

移住成果を次の市政へ

転入超過を実現した移住定住政策などを評価。持続可能な市政への
改革と成果を次世代へつなぐ決算。(中村 直人)

特段の財政指標の悪化も見られず

学校再編等による整備費用等が多額であったが、過疎債を財源に充
てるなど、財政への影響も最小限であった。県下トップの市税収納率
も評価できる。(西澤 和保)

未来への投資と健全財政

物価高対策や教育環境の整備の前進を評価し、将来を見据えた持続
可能な財政運営を求め賛成。(大竹 真千子)

議案第66号

令和7年度大町市水道事業会計剰余金の処分及び
決算の認定について

原案に反対

市水道の漏水対策

市の水道の漏水率は平均より高く水道料金の回収率は61.9%と低
い。最も漏水率の高い居谷里水系の見直しを行え。(大和 幸久)

議案第69号

令和7年度大町市公共下水道事業会計剰余金の処分及び
決算の認定について

原案に反対

経理処理の適正化を

下水道事業における受益者負担金は事業確定時には、差額分を清算
する義務があるが、市はしていない。是正を。(大和 幸久)



次ページは、一般質問

柳原市長の市政運営とビジョンは



政友クラブ 西澤 和保

Q 第6次総合計画を見据えた柳原市長の重点施策はなにか。

A 人口減少への取組をはじめ、こども子育てや観光、産業の強化、若手人材の確保から気候変動により多発する災害対策に至るまで、社会の革新などにも対応するべく多様性においても、将来への可能性として捉え市政運営に反映させたい。

Q 若者の地元離れが深刻な人口減少の要因となっている。その対策は。

A 過去の移住定住策が効果をもたらしているが、大学進学後の地元離れの対策は深刻である。松本糸魚川連絡道路等の推進を図り、雇用先の確保や産業誘致等の産業基盤の強



新体制になったことでの変革と発展に期待をしたい

化、民間企業への奨学金支援制度等の理解も頂きながら若手人材の確保への取組、故郷を愛する思いを醸成する教育等を通じ、更には奨学金制度の見直し等も行い、若者世代にしっかりと訴えていきたいと考える。

Q 松本糸魚川連絡道路はその重要性から、既に市民から早期完成への圧倒的支持がある。この民意をどう責任を持って県に伝えていくのか。

A 経済の発展はもとより、防災・救急医療などの重要性等、極めて重要なインフラとしての必要性をしっかりと県に伝えていきたい。

一般質問とは
議員が皆さんの声や地域の課題を届けるため、大町市の仕事全般について市長に質問する手続きです。行政の現在の取り組みや、将来の方針を明らかにします。



一般質問 市政を問う

自衛隊への名簿提供を問う



日本共産党大町市議員 栗林 陽一

Q 自衛官募集のため、市が住民基本台帳情報を自衛隊へ提供する法的根拠は何か。

A 自衛隊法、同法施行令、住民基本台帳法に基づき、情報を提供しているものである。

Q 本人の同意を基本とする方式に変更できないか。

A 個別の同意は必要とされず、提供方法を変更する考えはない。

Q 情報提供を望まない市民が確実に除外申請できるよう、年間を通じて申請を受け付け、一度除外を希望した人は、22歳になっても再申請せず、継続して除外する制度に改善できないか。

A ホームページや広報などを活用して制度の周知を図る。

Q 提供した情報について、利用

目的や保存期間、廃棄方法を市は把握しているか。

A 名簿は施錠できる書庫で管理し、使用後は裁断処理していることを確認している。

Q 中学校給食費の無償化の実施時期と財政負担はどうか。

A 来年度4月からの無償化に向け検討に着手する。年間約3,628万円の予算が必要になると見込んでいる。



自衛隊への名簿提供を望まない場合は除外申請が必要

柳原市長の市政運営とビジョンは	西澤 和保	9
自衛隊への名簿提供を問う	栗林 陽一	9
命を守る教育がもっと必要	小澤 悟	10
ハラスメントの無い職場のために	堀 堅一	10
柳原新市長に期待する	高橋 正	11
北アルプス玄関口としての復権を	中村 直人	11
柳原新市長の市政運営の抱負は	大和 幸久	12

避難所環境の整備が必要	宮田 一男	12
自治会を支える伴走の仕組みを	大竹 真千子	13
虹の家移管、大町病院の支援必要	山本 みゆき	13
どうする 4校の跡利用	中牧 盛登	14
新市長の大町市政のかじ取りは	降旗 達也	14
人口減は価値を生み出すチャンス	太田 昭司	15

命を守る教育がもっと必要



市民クラブ 小澤 悟

Q 小中学校教育における水泳教育の重要性は。

A 児童生徒が水に対する正しい知識と、自らの命を守る行動力を身につけられるようになること。

Q 小中学校のプールが取り壊されているが、どのように水泳教育をおこなっていくのか。

A 民間事業者が所有する屋内プール施設で水泳学習を実施している。水泳の技術指導に関しても、民間事業者の専門講師に指導をうけている。

Q ゆーぶる木崎湖の屋内プールを子育て支援の一環として、割引できないのか。

A ※1 年間パスポートに関しては、ファミリー券で市内の方、市外の方で分けて金額の差をつけている。

Q 自治会加入率が下がっている中、加入メリットを出すために、他の自治体では地域の店舗で使える優待カードや割引券を出しているが、当市も検討する用意はあるのか。

A 自治会側のニーズを調べ十分に検討していきたい。

公民館使用時の適正な減免率は

Q 市長は市民の声を聞くのか。

A 市民の声に耳を傾け、しっかりと意見を聞き判断する。

Q 適正な減免率はいつ出すのか。12月には公表できると思う。

子どもたちの声が聞こえない
旧西小学校のプール

用語解説

※1 年間パスポート…市内ファミリー35,000円、市外ファミリー45,000円

ハラスメントの無い職場のために



堀 堅一

Q 議会の委員会で職員の発言にある議員が大きな声で職員の発言を遮った。市の職員に対して投げつけられた暴言に対して「大田市職員ハラスメント対策指針」でどのような対応ができるのか。

A 今回の行為をハラスメントと認めるためには、最も守るべき被害者の意向を確認尊重すべきだ。被害者の同意がなければその後の調査は進められない。

Q 本人からの申し出がないと取り上げることができないとしても、周りの者が見て不快だと思うのなら取り上げるべきだ。運転についてもヒヤリハットを検証して大きな事故を防ぐための対策をしている。市庁舎内のセクハラや教育委員会内の金銭問題など7件の大きな事件や不祥

1件の不祥事の後ろには
299件の小さな問題が控えている

柳原新市長に期待する



無所属クラブ 高橋 正

Q 「人口減少は課題であるが、新しい産業やチャレンジの芽でもある」とは、どんな意味か。

A 当市では農林・観光・製造業など各分野が偏ることなくバランスの良い産業構造になっていると考える。人口減少の中で、産業ごとの縦割りを打破し、例えば農業と観光、農業と製造業など、分野横断的な掛け算の視点が重要と考える。

Q 「学校再編のメリットと、教育環境の改善を図る」とはどのようなものか。

A 大町南部小学校を除き、全ての学校が複数学級となった。校内には元気な声が響き合い、音楽会や委員会活動なども活発になった。学級数が増えたことで、円滑な学年経営ができる。多くの仲間や教職員の考

北アルプスに眠る無限の資源を探し出し
観光に活かす

え方に触れ、能力向上につながっている。

Q 黒部宇奈月キャニオンルートツアーが始まる。

これに合わせて高瀬渓谷なども売り出してはどうか。私も若い頃、厳冬の黒部ダムで穴釣りをしたことがある。その情景を今も忘れない。素晴らしい観光資源になると思う。そこでは夜明け前、峰々が金色に輝き、やがて白銀に変わってゆく。市長いかがか。

A 私はそのような景色は見たことがない。大町の持つ資源を生かしていきたいと思う。

用語解説

※2 ビジターセンター…観光案内や情報提供、交流などを行う施設。交通の拠点も兼ねる。

北アルプス玄関口としての復権を



政友クラブ 中村 直人

Q まほろば商店街等の「山とまちをつなぐ」動きを、官民連携でどう育てるか。

A 若い世代の発想・行動力と行政の公共性を組み合わせ、北アルプス玄関口の復権につなげる。

Q 昨今、白馬からの来訪も多い仁科三湖と山・まちを繋ぎ、大町の観光的な魅力として発信できないか。

A 観光サイトを刷新し、モデルコース等で回遊につなげたい。

Q 北高跡地に山岳観光の※2ビジターセンター機能を持たせられないか。

A 構想には共感する。次期観光計画に向けて民間の知見や意見を取り入れる仕組みを検討する。

Q 給食・農業・環境をつなぐ資源循環の拠点として、堆肥センター

をさらに活かせないか。

A 生産堆肥の県内初の有機JAS認定を受け、現在の学校での堆肥利用に加え、資源循環・環境教育の重要施設として活用を協議する。

Q 山・水・農・食を一つの「大町ブランド」にできないか。

A 北アルプスの水を起点に、農産物や地酒、人の営みまで一つの物語として発信していきたい。

Q 当市の自然を活かす取り組みを、若者や民間の視点を活かしながら、部署を越えて進めていけないか。

A 第6次総合計画に組織横断と民間共創を盛り込み、自然を「守る」「活かす」の両面から予算化を図る。

約3千人が訪れたまほろば商店街
山とまちをつなぐ挑戦

柳原新市長の市政運営の抱負は



無所属クラブ 大和 幸久
おおわ よしひさ

Q 市長は選挙戦で、市政に対する市民の多くの声を聞いたと言われた。そこには、どんな課題があり、どのように見直ししようとしているのか説明を。

A ハラスメント、公金の不正流用、入札妨害など、一連の不祥事では信頼回復に努めているが、なお陰しい道のりが残っている。

松糸道路では、盛り土による地域の分断、住環境の悪化を懸念する声がある。芸術祭の開催では、多額の予算を投じた事業の妥当性や効果について疑問を持つ方もいる。前市長の市政は安定運営の反面、組織の自主的、自発的な動きの足かせになる危険性もあると認識する。新市長が就任した今が組織を変える契機と認識している。

Q 柳原市長は第4回芸術祭に取り組むことを表明した。市民意識調査では、第3回芸術祭を見た市民は15%で85%の市民は見えていない。第1回から3回までの芸術祭を見た市民は10・5%で9割弱の市民は見えていない。芸術祭には関わりたくないという市民が43・7%いる。こうした市民の声こそ聞くべきではないか。

A 市民アンケート結果の評価については、しっかり見ていないが、市民の関心をもって参加いただくことが最重要課題という認識をもった。



市民の声に、公正に耳を傾けて欲しい

避難所環境の整備が必要



日本共産党大町市議員 宮田 一男
みやた かずお

Q 最大規模の災害による避難者に対応する避難所スペースは確保されているか。

A 国の基準である避難者一人当たり3・5㎡の避難スペースを確保する場合、想定される避難者3千680人に対して、863人分・3万805㎡不足しているが、新たな避難所の指定やホテル・旅館等の宿泊施設と災害協定を締結し、確保に努める。

Q 段ボールベッドの確保は。

A 161台確保しているが、想定避難者分には満たない。今年度も購入を予定しており順次確保する。当面の不足分については、災害協定先等の流通備蓄で対応する。

Q 指定避難所におけるエアコン等の冷暖房設備の設置状況は。

A 指定避難所31施設中12施設に設置している。

Q 小中学校体育館への設置は。

A 市では、設置はされていないが、国の特例交付金を活用して整備を進める。

代理受領制度の導入を

Q 住宅の耐震化率は。

A 約80%と推計している。

Q 耐震化工事をしない理由は、資金に余裕がないとなっている。工事代金を全額用意しなくてもよい代理受領制度の導入は考えられないか。

A 導入に向けすすめる。



災害用仮設トイレ
(大町市避難所開設運営訓練時)

自治会を支える伴走の仕組みを



政友クラブ 大竹 真千子
おおたけ まちこ

Q 自治会は根拠法も上部組織もなく、頼れるのは市だけである。組織の脆弱性をどう認識しているか。

A 自治会は防災や福祉など地域を支える基盤である。加入率低下や担い手不足で組織基盤が弱まっていることは課題と認識している。

Q 自治会長のおおまちは1年任期で知見が積み重ならず、未加入者との不公平感も解消されず悪循環となっている。市の認識と対応は。

A 自治会の運営調査を3年に1度実施し結果を自治会長と共有しているが、庁内での活用は今後の課題である。未加入者への一律のガイドライン化は慎重に検討しつつ、判例など参考情報を提供していく。



質問から3日後、6日付大系タイムスで人材配置の方針が示された

(出典：株式会社大系タイムス)

虹の家移管、大町病院の支援必要



政友クラブ 山本 みゆき
やまもと みゆき

Q 職員の派遣費用の負担方法について、どのように配慮を考えるか。

A 移管先の事業者との給与水準に差が生じる場合、職員間の公平性を確保する必要があり、移管先の事業者と十分に協議する。

Q 「虹の家」が地域の老人保健施設として安定的に存続していくための建物や土地についての考えは。

A 移管条件は、建物については広域連合からの無償貸付とし、土地については市からの有償貸付である。「虹の家」を民間移管するため、病院事業用地としての用途を廃止して普通財産に変えた上で、民間事業者と公有財産貸与契約を締結する。年間の土地利用料は県の算出方法に準じ、土地評価額×6%として算定する。また、条例や地方自治法により



大町病院の医療協力が不可欠

どうする 4校の跡利用



市民クラブ 中牧 盛登

Q 令和7年度に小学校等跡地利用検討委員会が設置され、会議も3回開かれているが、どのような議論をしているのか。

A 市の既存公共施設の機能移転等、行政財産としての利活用を検討している。

Q 跡地利用の意思決定には、スピード感を強く求めたい。

A スピード感を持って、色々な意見に耳を傾け前に進めて行く。

Q この委員会では、まちづくりの視点としての議論はあるのか。

A まちづくりの視点での議論はない。

Q 東小跡地利用の方向性はいつ決まるのか。

A 民間活用の可能性も含め、令和9年度には方向性を示したい。



令和9年度には、活用の方向性が決まる東小

Q 北小の方向性はいつになる。

A 幅広く検討したいので、令和9年度、市場調査を実施する。

Q 西小の方向性はいつになる。

A 西小は、教育文化・地域交流の拠点として教育委員会が所管している。方向性は、早急に検討する。

Q 旧北高跡地全体を活用する絵は、誰がいつまでに仕上げるのか。

A 企画財政課で仕上げる。

Q 跡地活用の検討過程も含め、市側の情報提供を求めたい。

A 検討過程は、逐次、議会へ報告する。

人口減は価値を生み出すチャンス



おた 太田 昭司

Q 大町市には森林・水・雪・高山環境・生物多様性・水力発電・気候変動・防災など、様々な研究の可能性があり、多くの研究者が訪れている。大学や研究機関にさらに働きかけてはどうか。

A フィールドワークや実証実験へ積極的に協力することにより、学生や研究者が継続的に市内へ訪れ、新たな関係人口の創出に繋がる。引き続き、積極的に受け入れを図る。

Q 今後さらに高齢化が進む大町市にとって「公共交通の充実」は死活的に重要なものではないか。

A 今後は^{※3}MaaSなど^{※4}交通DXの推進や、各地で導入が進む^{※5}AIデマンド交通や^{※6}日本版ライドシェアの導入など、地域住民が効率的に移動できる環境の整備が重要である。



大町の自然・景観と文化・歴史を繋げれば無限の価値が生まれる

※用語解説

- ※3 MaaS（マース）…各種交通手段をITで統合し、検索・予約・決済を一本化する移動サービス
- ※4 交通DX…デジタル技術で交通の不便を解消し、地域の移動を維持・効率化すること
- ※5 AIデマンド交通…AIが予約に応じた最適ルートを算出し運行する、乗合型の移動サービス
- ※6 日本版ライドシェア…タクシー会社が運行管理し、一般ドライバーが自家用車で客を運ぶ制度

議会モニターさんの声

前号(203号)の議会だよりを読んだ感想を聞いてみました

議会モニターになってみて、きちんと市議会だよりを読むようになったが、それまではほとんど読まなかった。多くの市民が興味をもって読めるような工夫が必要だと思う。

デザインやレイアウトがすっきりしていて読みやすいと思った。

様々な問題について、各市議の質問がわかりやすくまとめられていたと思います。それを見て、市のこれからについてたくさんの意見が交わされ、議論されていると感じる事が出来ると思いました。



新市長の大町市政のかじ取りは



峻嶺会 降旗 達也

Q 市長の目指す大町のすがたは。

A 市の将来像については、現在策定中の第6次総合計画で示す。

Q 掲げた公約と市民の考えの間にギャップはあったか。あった場合市民の声を尊重するのか、自身の思いを通していくのか。

A ギャップとして、北アルプス国際芸術祭は印象に残っている。目的や効果に理解が進んでいないことを実感した。信託された公約の重みも踏まえ、ギャップがある場合でも理解を深めながら地域にとって真に必要な取り組みを実行していく。

Q A・R事業や芸術祭については、市長の考えと市民の考えとの間に「齟齬」があるのではないか。

るのではないか。

A 「齟齬」という感覚はない。

Q 第6次総合計画は市長の考えが十分反映されたものになるのか。現計画を延長し、しっかりと計画を策定した方が良いのではないか。

A 総合計画審議会と市長との意見交換を行い市長の思いを伝えた。市長公約を踏まえた検討を進めており、第6次総合計画には市長の考えを十分反映して策定を進めていく。

Q 市長任期4年における想いは。

A 「失敗を恐れぬ果敢なチャレンジ」を基本姿勢に、新しいことに果敢に挑戦する組織風土を築きながら着実に市政を進めていく。



市長の思いを反映した第6次総合計画はまちづくりの将来像を示せるか

みんなのひろば Vol.34

議員が市民のみなさんの声を取材してつくるみんなのひろばです。

小学校6年生のみなさん

Q 小学生のうちにやっておきたいことは？

北部小学校



おだ のぞみ
小田 望実さん

小学生のうちに、親のお店のお手伝いをしっかりしておきたい。学校にいる間にみんなの顔と名前を覚えたい。

北部小学校



しもさか りゅうしん
下坂 竜慎さん

新しくできた友達と全力で過ごしたい。中学生になるまでに勉強の土台を作っておきたい。

北部小学校



いしもり りこ
石森 莉湖さん

中学へ行くとまた友達が増えるので、北部小にいた間に一人でも多くの友達の名前と顔を覚えて仲良くなりたい。

南部小学校



たかはし ふたば
高橋 双葉さん

テニスを習っているのので、サーブをうまく打てるようになりたい。あと観葉植物とか育ててみたい。

南部小学校



ほしの かい
星野 快虎さん

中学生になると部活とかで結構忙しくなると思うので、小学生のうちに、みんなで遊びたい。

八坂小中学校



にいやま
新山 さとりさん

中学進学で離れてしまう仲間もいるため、児童会長として全校生徒で遊べる企画をつくりたい。最高の思い出を作り、絆を深めたい。修学旅行を全力で楽しむ。

美麻小中学校



たざわ
田澤 ほとりさん

「生活」の授業でした砂防ダム見学や南庭遊びをまたしたい。かばんじゃなくランドセルで通学する。

編集後記

芸術の秋、読書の秋。心ひかれる作品や本に出会い、自分の感性でアートや文学を味わう時間を楽しむ時。A-やスマホがすぐに答えを示してくれる時代だからこそ、じっくり考えて答えを出すことの大切さを感じる季節にしたいですね。
(太田 昭司)

次回12月定例会予定

- 開 会 11月27日(金) 午前10時～
- 一般質問 12月 8日(火) ～12月10日(木)
- 最 終 日 12月18日(金) 午前10時～ 討論・採決

傍聴にお越しの際は

- 傍聴をご希望の方は議会棟 2 階の議会事務局で申込書をご記入ください。

インターネットと市ケーブルテレビで放送しています。録画・再放送もご覧いただけます。

大町市議会 議会中継

本会議の
生中継

広聴広報委員会広報分科会

【分科会長】 小澤 悟 【副分科会長】 栗林 陽一

【委 員】 一本木 秀章 太田 昭司 中村 直人 大竹 真千子 大和 幸久